
枯れない桜の島に...

紅蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

枯れない桜の島に…

【Nコード】

N7935M

【作者名】

紅蒼

【あらすじ】

一年中桜の枯れない不思議な島「初音島」

その島に移り住むことになった少年。

皆木 了

人騒がせな周りに巻き込まれながら彼はどんな物語を紡ぐのか…
また一つ初音島に新たなページが開かれていく…

前途多難（汗）（前書き）

はい。紅蒼です（ ）

ダカーポ2の二次小説書いちゃいます（笑）

いや、大好きなんすよダカーポ2。だから書きたくなって勢いで書いちゃいました（笑）

えゝ誤字脱字ありまくりかもですが暖かな目でみてやってください

m | | m

前途多難（汗）

ここが一年中桜の枯れない不思議な島「初音島」
今日から俺が暮らすことになる新しい土地。
親の転勤で突然この島に移住。

了「あゝあ、だり〜」
港に着いた船から降りながらため息をつく俺。

俺の名前は皆木 了。
上にも書いてるとおり親の転勤で突然この土地に引っ越すことにな
り絶賛脱力中。

充「おい了。ため息吐いてないでさっさと降りろよ」

ゲシゲシ・ドカドカ！！

了「つて〜な！息子を蹴るんじゃないよ」

後ろから俺のことを容赦なく蹴ってくるこのおっさんは俺の親父、
皆木 充。

仕事は出来るらしくこの島にある支店を任されたためこの初音島に
転勤になったらしいけど…家ではただのグ〜タラ親父だけどな（苦
笑）

充「いいからさっさと降りろよ。後ろがつまるだろ」

了「あいよ〜ったく」

あゝちなみに母親はいるけど現在外国にて仕事のため親父と二人
なわけで可哀想な境遇にいるわけじゃないからご安心をつけてね。

了「で、親父。俺らの住む家はどこなんだよ？」

充「あゝちょっと待て。たしか迎えが来る予定なんだよ」

了「は？迎え？知り合いか？」

充「あゝ俺の恩師だ」

了（ん？恩師？仕事の同僚とかじゃなくてなぜ恩師？）

俺が疑問に思いながら親父を見ていたら突然背後から親父を呼ぶ声
がした。

？「あついたいた。おゝい、充くん」

充「あつお久しぶりです。さくらさんお変わりなく」

親父を君付けで呼びながら歩いて来たのは……

了「親父…迎えに来るのは恩師？」

俺は頭が働かずなんとも間抜けな顔をしたまま親父に聞くと

充「そうだ。俺の恩師の芳野さくらさんだ。」

さ「はじめましてだね。芳野さくらです。よろしくね」

そういつて親父の恩師（？）の芳野さくらって人は右手を差し出し
てきた

了「あゝどうもどうも……ってんなわけあるかゝゝ！」
思わずノリ突っ込みをしてしまう俺を可哀想な子を見るような眼で
見る二人

了（なんだ？俺が変なのか？ってんなわけねゝだろ！）

充「了。大丈夫か？船旅で疲れたか？」

さ「ふにゃ、それは大変だね。早く家に行ってゆっくり休まないと」

了「ちょっと待て！そうじゃないだろ！だれがだれの恩師なんだ？」

充「だから、さくらさんが俺の」

さ「恩師です」

了（だめだこいつら、絶対頭がおかしい）

あまりのことにその場に両手をつき座り込む俺。

充「了。人を見た目で判断するようじゃまだまだだな」

親父が俺を見下ろしながら得意気にしゃべりだした

充「たしかにさくらさんは見た目は幼いがこれでも博士号を持って
るすごい人なんだぞ」

さ「充くん？「これでも」は余計だよ」

充「はい。すいません」

了（四十くるおっさんが十代くらいの女の子に頭を下げる図……無
いだろ（泣）

さ「皆木了くんだったっけ？」

ふいにさくらさんが俺に話かけてきた。

了「はい。なんすか？」

さ「疑うのはわかるけど僕が昔充くんの先生をしてたのは事実だからね」

俺の目を真っ直ぐに捉えて話すその姿は確かに威厳のあるもので信じざるをえない何かがあった。

了「……わかりました。信じます」

さ「には、ありがとうございます」

了（……本当に信じていいのだろうか（汗）

充「さて、話は済んだしとりあえずさくらさん家まで案内お願いします」

さ「おっけー じゃあ行くつか」「そう言って歩き出すさくらさんを先頭に俺たちは今日から住む家へと向かい歩き出した。

前途多難(汗)(後書き)

はい。第一話ががんばってみました。

いや〜なんか：大丈夫か？俺！みたいな感じの紅蒼です（ ;
書きながら「めっちゃ勢いだけじゃね〜の！俺」とか思ったりして
ますm（| |）m

え〜こんな紅蒼ですが。よろしければ感想やご教示いただければ幸
いですo（^-^）o
ではでは次もがんばります

賑やかな三人組（前書き）

第2話投稿……

進まね〜”（ノ<>）ノ

2話目にも関わらず港からちよつと移動しただけじゃん（ ;

文才の無さになてきます（TOT）

でも、がんばります”（ノ<>）ノ

てことで、未永く暖かな目で2話目みてやってくださいm（ |（

m

賑やかな三人組

いまはさくらさんに初音島の案内も兼ねながら俺たちが今日から住む家に向かって歩いてる。

さ「どうかな？ 充くん初音島は？」

充「街の人たちも気さくに話してくれるしいところですね」

さ「でしょ」

俺の前方ではさくらさんと親父が談笑しながら歩いている。

俺はというと...

了（うーん、思ったたよりは店もあるし暇はしなくてすみそうかな）などと考えながら周りの店などを見ながら歩いていたのが失敗だった。

ドスッ！

？「あたっ！」

了「いつだ〜〜っ！」

突然後頭部に激痛発生！！

全力でのた打ち回る俺！？

了（なんだ？ 敵か？ テロか？ …って後頭部専門テロなんかあるか！？）

突然の激痛にプチパニックな俺、その俺の後ろからなにやら賑やかな奴らが近づいてきた。

？「小恋。体を張ってナンパ？ さすがね」

？「なるほど〜 出会いはインパクトが大事だもんね〜」

俺が振り返ると俺の後頭部に打撃を与えただろう女の子に対してか

らかい全開で話しかけている二人組の女の子がいた。

？「あう〜痛い（泣）って杏！ナンパなんかしてないよ〜！茜もうまいこと言っただみたいな顔してないでよ」

俺に打撃を加えた女の子は頭をさすりながら近づいてきた二人組に文句を言っている。

了（なんか騒がしい連中だな）

？「も〜二人ともすぐからかうんだから。あつごめんなさい。よそ見しながら歩いてたからぶつかっちゃって」

さっき俺にぶつかった女の子が俺の方に向き直り謝る。

了「あ〜俺もよそ見してたから避けなくて、ごめんな」

さすがに地面に転がったまま話すのも失礼だから立ち上がり俺も謝った。小「そんな、私がちゃんと周りを見てなかったのが悪いんだから。ごめんなさい」

了「いや、俺のほうが…ってこのままじゃ堂々巡りだな。よし、ここはお互い様ってことで」

俺はこのままだとひたすら謝り合いになりそうだからそう言いくるめることにした

小「う〜ごめんね〜」

了「だからもういいって（笑）」

まだ謝りそうな女の子をたしなめしていると後ろから突然…

充「了！なにこんなところでフラグをたてていやがる。うらやまし
いぞ、このヤロー」

了「全力の右すとれ〜とおお〜!!」
親父だろうがかまうものか俺は全体重をかけた右ストレートを親父のボディにクリティカルヒットさせてやる!

ドガツシャ〜ゴロゴロ……パタッ…

充「あんたつえ〜よ…ぐはっ」

豪快に転がり息絶える親父

了「ふ〜ゴミ掃除完了!(b^_^)」

全開爽やかスマイルを披露する俺

一同「いやっそんなスマイルを送られても…」

さ「にやははは…充くんも相変わらずだね」

苦笑しながらさくらさんが親父に哀れみの視線を送っている。了)

昔からなのかよ、この性格)

充「それはさておき、君たちはこの島の子たちかい？」

突然復活スーパー父!? パッパカパ〜ン。、。、。

一同「……………」

了(みな唾然としているし。いや、さくらさんは苦笑って感じだな)

さ「…え〜と、この子たちは僕の学園の生徒で、さっき了くんがぶつかった子が月島小恋ちゃん」

小「はじめまして、月島です」

さ「それでこの子が雪村杏ちゃん」

杏「はじめまして」

さ「で、この子が花咲茜ちゃん」

茜「ども〜 花咲茜です」

三者三様に挨拶をしてきた。

充「へ〜みんなさくらさんの学園の生徒さんなんだ。あつ僕は今日この島に引越してきた皆木充。そしてその小坊主が俺の息子の皆木了。よろしくね」

なにやら親父がさわやかに挨拶してやがるが…第一印象があれじゃ〜いまさら爽やかもなにもないだろうな。

一同「…どうも」

了ほらな…

了「とりあえずこの変態親父から挨拶あつたけど俺は皆木了。よろしく。っていまさらって感じもするけどな（笑）」

さ「ちなみに了くんも明日から風見学園に通うからみんな仲良くね」

」

小「そうなんだ、明日からよろしくね」

杏「ふふ、明日からまた楽しくなりそうね」

了（こいつ危険な気がする…）茜「はいはい、よろしくね〜」

充「さて、さくらさん案内の続きお願いしますね」

さ「おっけ〜。じゃあみんなまたね」

一同「はい、さくら（さん・学園長）」

俺たちは騒がしい三人組と別れ新居に向けて歩き出した

充「ちなみに了。…どの子がタイプだ？俺は花咲茜ちゃんがイイナ」

ニヤニヤしながら親父が聞いてきた

了「ふむ、その言葉母さんにちゃんと伝えとくからな！（b^_^。）

「
爽やかに親父に返すと…

充「ごめんなさ〜い!？」

負け犬の遠吠えが島に響く（笑）

さ「ほんとうに昔と変わらないね充くんは…にやははは…」

賑やかな三人組（後書き）

こんな感じで…なんか完全ギャグ方向に全開な気がしてきた…（
；）

次はもうすこし話が進むはず……………進めばいいな 〃 〃
（ ー・ ）

到着新住居

賑やか三人組と別れてから歩くこと20分ごろ

さ「到着 ここが今日から充くと了くんが住む家だよ」

さくらさんが足を止め一件の家を指差した

充「ここが今日から俺たちが住む家だぞ了」

了「…思ってたより普通だな」充「了」：お前は俺をどうゆう目で見てるんだ？」

ガツクリと肩を落として親父が聞いてきた

了「そんなの決まってるだろ。ただの変態！（b^ー。）」

充「爽やかに言うな〜!？」

叫びながら放つ親父の右ストレートをかいくぐりカウンターの右ストレート！（b^ー。）

充「なっ！クロスカウン・たわばっ！」

了「いえ〜す、クリティカルヒット」

見事に親父の顔面直撃

思わずガッツポーズな俺（笑）

さ「…えっと、一応近隣の人たちもいるから…おかしな行動はしないほうがいいかなと」

充・了「はっ（ ; ; ）」

ふと周りを見渡せば怪しい人を見る目で俺と親父を見る人ばかりが…

了「…ちなみにさくらさんはなぜジワジワと離れていつてるんです

か？」

さ「えっ！？いやいや気のせいだよ気のせい。おっと仕事はまだ残ってたんだった。じゃあちゃんと案内したからね〜」
そう言いながら全速力でその場から逃げ出すさくらさん

充・了「ちよつさくらさん」まだ周りには俺たちを怪しいと見る人だけだかりが……

充「…とりあえず、家に入るか」

了「…了解」

周りの目から逃げるように家へと逃げ込む俺たち

了（ちくしょ〜初日から近隣の皆さんには最悪なイメージだあああ

〜）

到着新住居（後書き）

……とりあえずがんばれ自分”（ノ＜＞（ノ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7935m/>

枯れない桜の島に...

2010年10月12日08時01分発行